

みやぎ技能 KENTEI NEWS

—第5号—
令和3年2月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

古川電気工業株式会社 塩森大輔さん（25歳）

一級電気機器組立て技能士（配電盤・制御盤組立て作業）令和元年合格



受検するきっかけ

平成26年に仙台工業高等学校を卒業後、古川電気工業株式会社に入社し、現在は電気機器組立部門で主にパソコンを使って銅板部材の寸法出し工程に携わっています。

入社して間もない頃は、業務を覚えることに必死でしたが、少し慣れてきて周囲を見渡せるようになった頃、終業後に、先輩たちが、技能検定の練習に真剣に取り組んでいる姿を見て、すごいな、カッコいいなと憧れを抱き、自分もやってみようかなという気持ちを持つようになりました。ちょうどその頃に、会社から挑戦してみないかと勧められたのが受検のきっかけです。

合格に向けて取り組んだこと

平成28年に電気機器組立2級を受検しました。検定の3ヶ月ほど前から練習を始め、はじめは週1回、検定が近づくと週2~3回、終業後に練習し、直前には通し練習をしました。普段のライン業務では図面をみて作業を行うことはないので、最初は図面の見方も

わからなくて苦労しました。練習では、とにかく、苦手な回路や作業のパーツ練習を重点的に反復しました。通し練習でぎりぎり時間内でできても、本番は緊張や雰囲気の違いなどで、プラスアルファの時間がかかってしまうので、それでも間に合うという感覚を得るまで、とにかく練習することが肝心だと思います。

練習に際しては、検定合格者の社内の先輩方が指導員になってくださり、図面の見方から練習の仕方、早くできるコツなどを教えていただいたり、練習で作成した完成品を見てもらってアドバイスをいただいたりしました。

技能検定受検を通して得たこと

2級の練習を始めた頃、いろいろとわからないことがありながらも、初めて一人で課題を完成できたときの達成感は今でも覚えています。

また、2級も1級も、制限時間内に課題の作業を全て終えなければならず、そのためには、いかに無駄な作業を省くかを考えて工夫しなければなりません。特に1級は、2級と同じ時間で作業数が増えるので、増えた分の作業時間をどう生み出すかが難しく、自分で考えてやってみるということの繰り返しでした。おかげで、考える力が身についたと感じました。



ほかにも、学科でも実技でも、勉強や練習を通して、わからなかったことがわかる楽しさを知ることができてよかったです。自分の作業だけをやっていた時には知らなかった、工程全体を知ることができたので、作業ラインの自分のところにくるまでに、誰がどう頑張っているのか、このあと、誰がどう頑張るのかがわかり、一人で造っているんじゃないんだ、「ありがたいな」という気持ちを持つようになりました。改めて、ものづくりが楽しいな、天職だなと感じるようになり、いろいろな意味で、受検してよかったなと思います。

今後の目標

練習での先輩のアドバイスは本当にありがたかったし、心強かったので、自分が先輩に支えてもらったように、今度は自分が後輩を支えてあげたいなと思います。受検したからこそ、受けてよかった、頑張ってきたと言えるので、そのことを後輩にも伝えていけたらいいなと思います。

また、受検を通して仕事の流れがわかっていなかったことを痛感したので、今後は、仕事全体の流れを意識しながら、自分の仕事にも取り組みたいと思いますし、気がついたことや改善策の提案などもしていくことができればいいなと思います。



事業者の声

技能検定への取り組みについて伺いました。



技能検定への取り組み状況

私が入社した頃には既に、社内には技能検定を積極的に受検しようという機運がありましたので、20年以上前から、社内で受検をサポートする体制はあったと思います。検定が近づいてくると、自然と、さあ練習するぞ、という覇気のような雰囲気を感じられるようになり、会社としても、材料も設備も使っていいから練習頑張って、というような雰囲気になります。

受検はあくまでも本人の意思ですが、先輩たちが検定の練習をしている姿をみて、自然に受検を考えるようになっているので、会社としても入社から数年した頃に、チャレンジしてみるか？という感じで声がけをしています。毎年、電気機器組立や電気製図の検定に社員が挑戦しています。

会社からのバックアップ

受検料は、社内規定により、各職種各級で2回まで援助しています。練習に使う設備や材料も会社が負担しています。

合格した場合の給与や手当への反映はないですが、

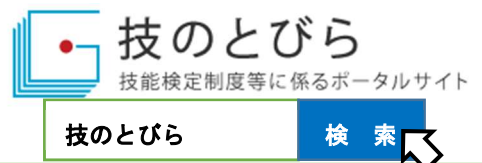
<ひとくちメモ こんな職種知ってる？>

「**築炉（ちくろ）**」化学工場や製鉄所などで使用されている工業用炉を、耐火レンガなどを使って、新設・メンテナンスなどを行うことです。「築炉職種」は、工業用炉の製造及び修理に必要な技能・知識を対象としています。

ほかにも、さまざまな場所に、たくさんの分野の仕事があり、私たちの社会や暮らしを支えています。そこにある「技能」を知ることから、あなたの世界が広がるかも。

「技のとびら」(技能検定制度ポータルサイト)のご紹介

さまざまな技能職種の紹介のほか、各種技能競技大会情報、技能検定の合格者体験談のほか、企業側の視点で技能士に期待する活躍や、技能士の活用事例なども掲載されています。ぜひ一度のぞいてみてください。



人事評価の点では加点が期待できます。また、資格取得した者は社内の資格取得者掲示板に掲示されるので、これも励みになっているかもしれません。

検定の練習の指導は、技能検定合格者を含めた社内の専門的知識を持った社員が担っています。指導員の年齢層は若手から年配者まで幅広く、指導する側にとっても、指導する技術の継承や人材の育成になっていると思います。



資格取得の意義

特に若手の社員が受検することには意義があると思います。自分で考えて取り組むことができるようになれば、普段の仕事も自分で考えて仕事の段取りを組めるようになっていくでしょう。仕事の仕方にも生きてくると思います。社内でも信頼を得て、自信もつくのではないかと思います。

検定に取り組むことで、全体を俯瞰できるようになり、効率化により時間を生み出せるということは、経費削減にもつながり、そういった社員が増えることは会社としても頼もしいです。

また、技能検定合格者が多ければ、それは確かな技能を持った社員が製造した製品であるという証明になり、会社としてもお客様の信頼を得ることにつながり、結果として会社の発展に貢献しているということにもなります。

今後の取り組み

当社は現在新規採用職員を継続的に採用しており、今後も採用していきたいと思っています。年代の途切れなく、バランスよく技能者を育成したいと考えているからです。

入社希望者の会社見学の時などには、技能検定をはじめとした資格取得の状況と会社のサポートの内容を必ず伝えるようにしています。そうすることで、入社したら、自分はどんな風に育ててもらえるのかな、どう成長できるのかなという部分の期待や不安に答えられればと思っています。

もちろん、技能検定への社としてのサポートは今後も継続していきたいと思っています。検定の練習を通して社員同士のつながりも生まれ、いい仕事、いい会社につながると考えています。

当社は「失敗できる技術者」を募集しています。失敗は成功の母であり、失敗そのものよりも、むしろ失敗を恐れる気持ちが最大のリスクと考えています。

ですから、技能検定に不合格でも、翌年には「今年もやってみない？」と再チャレンジの声かけをして、モチベーションを維持できるように見守って励ましていきたいなと思っています。

グループ会社も含めて、今後も確かな技術を持つ技能士を継続的に輩出していけたらと思っています。



古川電気工業株式会社

営業品目 配電盤、キュービクル式受電設備、薄形キュービクル、制御盤、分電盤、警報盤、計装盤、空調盤、FA システム、グラフィックパネル、LonWorks システム、監視制御システム
事業内容 配電盤 制御盤 分電盤 監視盤 計装盤 製造販売、FA システム（監視・制御システム）設計開発、LonWorks システム設計開発



会社紹介

社名：古川電気工業株式会社
代表：代表取締役 茂泉 勝弘
創業：昭和5年4月10日
所在地：仙台市宮城野区扇町二丁目1番10号
TEL：022-236-6031
Web：https://furukawa-denki.com/



【第58回技能五輪 旋盤職種 二次予選会 出場】
(ゼッケン5番:本人)

受検するきっかけ

私がこの検定を受検したきっかけは、高校に入ってから始めた普通旋盤の技術を向上させるためでした。また、その際に部活動の顧問の先生に過去の先輩でも何人か参加したことがある技能五輪について教わり、今の自分の限界でも足りない課題に全力で取り組みこれからの糧にしようと考えていました。

合格に向けて取り組んだこと

2級合格に向けて私は、段取りを明確にしました。3級には無かった偏心や溝、ねじ切り、テーパ合わせなどより複雑な加工を要求されるため以前よりも綿密な加工手順を製作して挑みました。それに合わせて各加工ごとの要素練習にも力を入れていました。特に偏心とねじ切りは他の人に比べて上手くできていなかったため重点的に練習していました。その中で自分に合った方法をめる程度確立していきました。初めから最後まで通す際には、時間よりも精度を優先し一つ一つ丁寧に加工するようにしていました。

技能検定受検を通して得たこと

この検定を受検して得たことは、長時間作業し続けることのできる忍耐力と発展的な加工技術です。作業中は考えることが多く、時間にも迫られるため強いストレスを感じやすいですが、そんな状況でも最後までやりきることのできる集中力を鍛えられました。また、先輩への相談や練習を繰り返し、これまで出来なかった加工にも挑戦し、より安定して精度を出せるようになりました。

今後の目標

今後の目標は、旋盤から離れて技能検定機械検査作業の2級の取得です。これまで、旋盤を主に扱ってきたので他の技術を深め、多角的な視点を育てるためです。また、今年で卒業なので、今持っている技術をより盤石にしたいと思い受検することにしました。もともと旋盤でも使っていた測定器を多く扱うのでそれらの扱いを確かにするためです。



学校の声：機械科長 三浦良市さん

本校は「誠実・節度・創造」を校訓とし、「もの(技術)づくり、ひと(人材)づくり、ゆめ(未来)づくり」をキャッチフレーズとして掲げ、県工スタンダードA(Advanced:発展)B(Basic:標準)C(Core:必修)の推進のもと、豊かな人間性と創造性を兼ね備えた心身とも健全な工業技術者の育成を目指している工業高校です。

生徒は、しっかりと学業に取り組むと共に部活動や資格取得、ものづくり競技大会に積極的に挑戦し、昨年度は第45回技能五輪国際大会ロシア連邦・カザン大会出場(業務用ITソフトウェアソリューションズ職種)、今年度においても高校生ものづくりコンテスト東北大会出場(旋盤作業部門、電子回路組立部門、化学分析部門)や技能五輪全国大会出場(フライス盤職種:出場、ウェブデザイン職種:銀賞)等、優秀な成績を収めています。

本校が様々な取組みをしている中の一つに「技能検定取得」があります。工業高校で「ものづくり」を3年間学び、その「証」として資格は必要なもので、機械科では今まで約300名を超える生徒が技能検定を取得し、卒業しています。卒業生の中には、技能検定取得をきっかけに就職後、技能五輪全国大会(今年度:機械科卒業生9名出場→6名入賞)へ出場し、その後、技能五輪の指導員として後輩社員に指導している者や設計・開発に携わる者もおります。私自身も、過去には生徒と共にこの「技能検定取得」にチャレンジした経験もあり、一緒に合格の喜びを分かち合った時もありました。

これからも「技能検定取得」がものづくりの原動力として生徒のものづくりに対する意欲や技術・技能の向上に繋がるとともに、地域を支える人材として輩出していけるように今後も「目指せ!技能士」を掲げていきたいと思っております。

学校名：宮城県工業高等学校
創立：大正2年2月
学科：機械科、電子機械科、電気科、インテリア科、
化学工業科、情報技術科(8クラス6学科)
所在地：仙台市青葉区米ヶ袋三丁目2番1号
HP：<https://miyagi-th.myswan.ed.jp/>